

株式投資・トレードの実践は、真夜中に地図も無い未踏の真つ暗な険しい山道を、車で独り走り続けるようなものである。道は頻繁に左右に曲がりくねり、上り坂を走っていると思っていたらいつの間にか下り坂になっている。晴れていればヘッドライトで少し先までは見通せるが、時には強風と土砂降りの雨の中、まったく先が見通せなくなることもある。ポジションを持つている限り、それでも走り続ける必要がある。当てにならない天気予報だけを頼りに、少し先の山道が

### 実学の株式投資技術の必要性(22)

未来とのギャップは遠くならねばなるほど大きくなる。しかし、ほとんどの個人投資家は、明日にも天候が急変する可能性があるにもかかわらず何の心の準備もせず、株式相場という予測不可能な道を常に「買ったら放置」教を盲信してフルスロットル状態で猪突猛進する。その当然の結果として、ほとんどの個人投資家はうまく相場の波に乗れないのはもちろんのこと、3年から7年に一度くらいの頻度で相場全体が暴落する時には短期間に大損して退場する人も多い。

では、どうすれば良いのか。機関投資家のように巨体すぎて小回りができない投資家は別として、小回りが利く個人投資家に本当に「相場技術」となる。では、どのように相場技術を高めれば良いのだろうか。株式投資・トレードの実戦ではある程度の知識は当然必要だが、知識がある水準(閾値)を超えてきたらそれ以上知識をいくら増やしても追加効果がほとんどなくなる。相場の原理原則と定石を習得した株式投資・トレードの高級者が上級者を目指すなら、もはや単なる「勉強」ではなく、実際に「生涯儲(もう)け続ける」ためには何をどうすれば良いかを自らの頭で研究し続けることである。やるべきことは、もっと多くの書物を読破してただ単に物知りになつて自己満足することではない。

# お金の悩みから 解放される切り札



根幹 大学教授 徳大 知淑 愛知  
三矢 幹

どんな状態になっているかはある程度は想像できるが、現在分かっている情報から予想する未来と現実の

必要なことは車の「運転技術」と同様に、上げ相場から下げ相場への変化に適切に反応する「相場技術」である。実戦では、書物などから間接的に得た単なる「知識」(頭在知)よりも、自らの体験・経験から直接的に得た「技能」(暗黙知)の方がはるかに重要度は高い。書物などから学んだある程度の体系的な「知識」はもろろん必須である。しかし、それに自らの体験・経験を通して習得した「技能」を有機的に融合させ、実戦という修羅場で十分な場数を踏んで初めて本物の「相場技術」となる。

では、どのように相場技術を高めれば良いのだろうか。株式投資・トレードの実戦ではある程度の知識は当然必要だが、知識がある水準(閾値)を超えてきたらそれ以上知識をいくら増やしても追加効果がほとんどなくなる。相場の原理原則と定石を習得した株式投資・トレードの高級者が上級者を目指すなら、もはや単なる「勉強」ではなく、実際に「生涯儲(もう)け続ける」ためには何をどうすれば良いかを自らの頭で研究し続けることである。やるべきことは、もっと多くの書物を読破してただ単に物知りになつて自己満足することではない。

株価の原理原則に照らし合わせて過去数十年の株価の動きを自ら観察・考察した上で、相場観測法、銘柄選択法、建玉法を統合した三位一体の儲け続けるための方法論の仮説を立てる。その仮説をさまざまな局面でバックテストして実証し、自分独自の株式投資・トレードの「売買ルール」を創る。その有効性の高さをある程度確認できたら、実際に少額を投じて実戦で自ら試してみる。うまくできない時は原因を分析して微調整する。この繰り返しが生涯現役の株式トレード技術となり、日本人のほとんど誰もが抱えるお金のまじわる諸々の悩みから生涯解放される切り札となる。

みつや・みかね コーポレート  
ファイナンス・証券投資論・株式  
投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リーズ  
大学経営学大学院・MBA(Finance)。  
1959年生まれ。